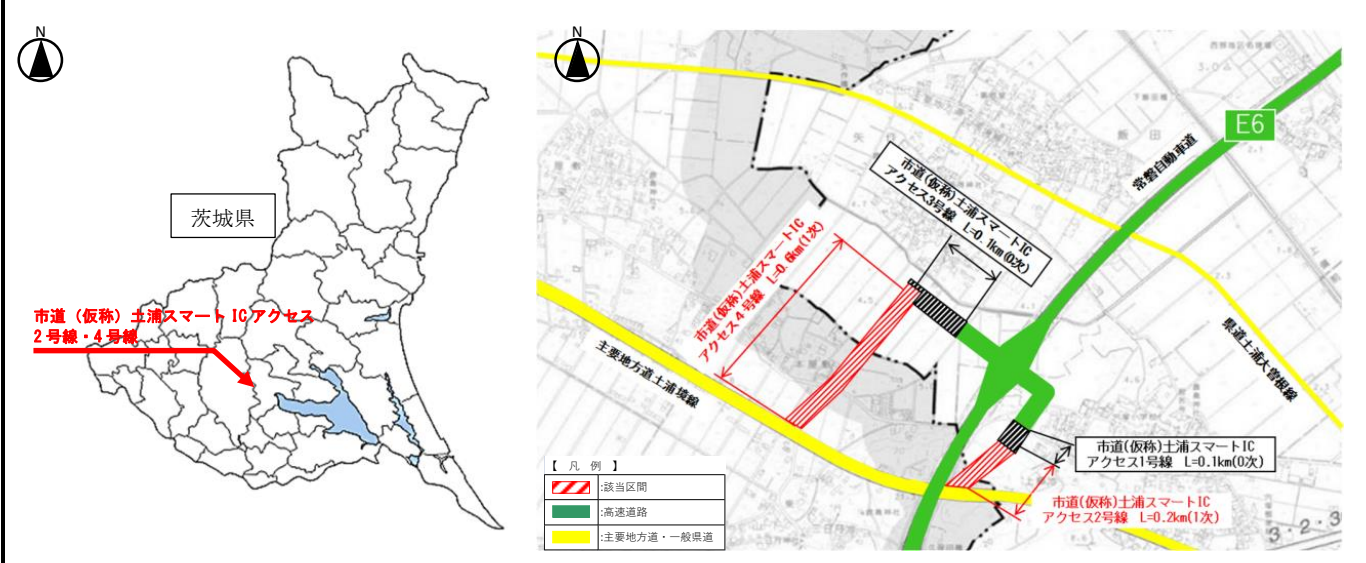


新規事業採択時評価結果(令和7年度新規事業化箇所)

担当課： 道路局 環境安全・防災課
担当課長名： 水野 宏治

事業の概要

事業名	スマートICアクセス 市道(仮称)土浦スマートICアクセス2号線・4号線 (仮称)土浦スマートICアクセス	事業区分	地方道	事業主体	茨城県土浦市
起終点	自:茨城県土浦市栄塚 至:茨城県土浦市矢作			延長	0.8km
事業概要	市道(仮称)土浦スマートICアクセスは常磐自動車道 桜土浦ICと土浦北IC間に整備予定のスマートICへのアクセス道路であり、常磐自動車道から主要地方道 土浦境線までの延長約0.8kmを整備するものである。				
事業の目的、必要性	当該事業の整備により、常磐自動車道とのアクセス性が向上することで、中心市街地へのアクセス向上や観光振興の支援、物流の定時性向上・効率化、救急医療の支援、大規模災害時の緊急輸送・災害復旧の支援等への寄与が期待される。				
全体事業費	約15億円		計画交通量	約3,500台／日	
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

・土浦市の上位計画に位置づけられている。 第9次土浦市総合計画(令和4年3月策定)、土浦市地域防災計画(令和4年3月改訂) 第2次土浦市国土強靱化地域計画(令和4年3月改訂)、土浦市マスタープラン(令和6年3月改訂) 土浦市立地適正化計画(令和6年3月改訂)
--

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業採択時評価委員会(令和6年12月25日)において、新規事業化は妥当であると評価。

対応方針(採択理由)

費用便益比が 9.7 であることに加え、計画段階評価が完了するなど事業実施環境が整っており、事業採択の前提条件が確認できる。また、市道(仮称)土浦スマートICアクセスの整備により、中心市街地へのアクセス向上や物流の定時性向上・効率化を支援するとともに、観光振興の支援など、当該道路の整備の必要性・効果は高いものと判断される。 以上より、本事業は令和7年度新規事業箇所として妥当である。

事業評価結果（総合評価）

事業採択の前提条件	
☑️便益が費用を上回っている	
☑️事業実施環境が整っている	

費用 便益 分析	B/C		(参考)	EIRR		総費用	12億円	総便益	113億円		感度分析		基準年
		[4%]	9.7		22.3%	〔 事業費： 維持管理費： 更新費：	11億円 0.26億円 - 億円〕	〔 走行時間短縮便益： 走行経費減少便益： 交通事故減少便益：	88億円 21億円 4.3億円〕		交通量変動	B/C＝8. 7～10. 7(変動ケース：±10%)	令和6年
	(参考)	[2%]	15.2								事業費変動	B/C＝8. 8～10. 8(変動ケース：±10%)	
		[1%]	20.1								事業期間変動	B/C＝9. 0～10. 2(変動ケース：±20%)	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cは を対象とした場合の値、() 書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

事業 の 影 響	評価項目		評価	根拠
	自動車や歩行者へ の影響	渋滞対策	○	・常磐自動車道へのアクセス向上による渋滞緩和 スマートICと接続することにより、国道6号や国道354号等、主要路線の交通分散が図られ、渋滞緩和に寄与する。 【国道6号の交通量】 約1,200台/日減少(61,600台⇒60,400台)
		事故対策	○	・交通安全の確保 主要路線の交通量が減少し、追突等の事故軽減が期待される。
		歩行空間	—	・注目すべき影響はない。
	社会全体への影響	住民生活	◎	・中心市街地へのアクセス向上・緊急医療の支援 土浦駅やつくば駅へのアクセス時間が短縮し、中心市街地へのアクセスが向上する。 【東京方面～土浦駅】所要時間 約2分短縮(17分⇒15分) 【水戸方面～つくば駅】所要時間 約12分短縮(21分⇒9分) 県内唯一の高度救命救急センターである筑波大学附属病院へのアクセス時間が短縮、筑波大学附属病院の40分圏域人口は増加し、救急医療の支援に寄与する。 【水戸方面～筑波大学附属病院】 所要時間 約5分短縮 (22分⇒17分) 【筑波大学附属病院】 40分圏域人口 7.9万人増加
		地域経済	◎	・物流の定時性向上・効率化の支援 物流施設が集積する中根金田台地区へのアクセス時間が短縮し物流の効率化の支援が期待される。 【常磐道IC～中根金田台地区】 所要時間 約18分短縮(25分⇒7分)
		災害	◎	・大規模災害時の緊急輸送・災害復旧の支援 土浦市の防災拠点である「土浦市消防本部」へのアクセス時間が短縮し、高速道路からのリダンダンシーが確保され、大規模災害時の緊急輸送・災害復旧の支援が期待される。 【常磐道IC～土浦市消防本部】 所要時間 最大5分短縮(10分⇒5分) 震災時に家屋倒壊や液状化被害が想定される地域へ高速道路から最短距離でアクセスが可能となり円滑な災害復旧・支援に寄与する。
		環境	—	・注目すべき影響はない。
		地域社会	◎	・観光振興の支援 つくば霞ヶ浦りんりんロードの拠点施設へのアクセス時間が短縮し、来訪者(サイクリスト)の増加による観光の振興に寄与する。 【東京方面～りんりんポート土浦】 所要時間 2分短縮(13分⇒11分)

事業実施環境	
・常磐自動車道との連結許可(令和6年8月28日)	
・土浦市の上位計画(第9次土浦市総合計画(令和4年3月策定)等)に位置付けられている。	